白門５０会
会報
第９号
2009 年(平成 21 年)
発　行　中央大学学員会「白門５０会」支部
編　集　広報部会　外村幸雄（法・政治）　山下史雄（法・政治）
投稿/連絡
山下史雄　E-mail: grande8131pescad@kub.biglobe.ne.jp
※投稿は電子メールで。電子メールの写真は.jpeg でお願いします。

２１年度事業について

白門５０会　会長　山井　俊昭

会長就任以来「５０会の事業は分かりやすく確実に継続することが大事」として①総会 ②ホームカミングデー ③箱根駅伝応援 の三大事業を確実に行ってまいりました。今年度もこれらの事業については変わりなく行います。

総会については６月６日(土曜日)駿河台記念館で開催することとしました。例年、総会では会員に短い講演をお願いしています。今年は吉田光弘さんが受け持ってくださいます。テーマについては未定ですが、きっと楽しいお話をして頂けるものと期待しています。５０会のメンバーももうじき還暦です。半世紀は確実に生きているわけで、その人なりの人生の感じ方を聞かせていただくのも有意義なことと楽しみにしています。

大学及び学員会が主催するホームカミングデーは、今年は１０月２５日(日曜日)多摩キャンパスで行われることが決まっています。お楽しみ抽選会や、講演会、出店などで大変賑やかな会となっています。５０会では、大学の行事に参加した後、近くのお店（寿司屋）で交流会を行っています。お茶の水育ちの我々の年代でも多摩に移った母校を一度は見てみてはいかがでしょうか。ここならもっと勉強できたのにと思ってもすでに手遅れですが。

箱根駅伝の応援も、例年パイプのけむりで行っていましたが、来年正月については、箱根ホテル「小涌園」で行うことになるかもしれません。

　　というのもパイプのけむりが売却され、新オーナー（第一興商らしい）がパイプのけむりと同条件で利用させていただけるかどうかわからないからです。どうしても正月は箱根で応援したい５０会としては、代替え会場を探索しておりましたが、箱根の杉本博会員のつてで箱根ホテル「小涌園」に１５名分の予約をとることができました。料金も同程度でできそうです。

総会は６月６日 駿河台で ■ 首都圏以外での交流課題に

箱根駅伝の応援に駆けつけた５０会の面々

ただ、ご存じの通り箱根ホテル「小涌園」周辺はテレビの固定カメラが設置されているため大混雑が予想される地点です。５０会のいつも通りの応援ができるかどうか心配でもあります。

パイプのけむりの大きな駐車場、目の前の沿道応援のしやすさを考えると、できれば新オーナーと交渉していつものようにパイプのけむりで応援したいものだと考えております。４月に新オーナー会社と交渉できるようなので、その後に正式に決めます。箱根といえば温泉、小涌園なら家族連れで行けるのにと思われる方もいらっしゃるかもね。

以上、三つの行事については確実に実行してまいりますが、５０会としては次の課題について役員会で常に話題になっています。

1. 東京周辺以外の会員が参加できる事業はできないか？
2. 会費を納めていただいている会員へのサービスは？

どうしても東京周辺の会員の参加に偏ってしまうことに参加者一同申しわけなく思っています。確かに、たまたま上京の機会があったので参加したという会員もいらっしゃいましたが、ほとんどの参加者は東京周辺の日帰りのできる人たちです。それでは逆に東京周辺の会員が年に一度くらいは各地に出かけてはどうかという意見があります。京都、大阪、九州、北海道と現地の何人かの会員に呼びかけていただき、現地で交流会等を行うという意見です。今年はぜひ実現に向けて検討したいと思っています。

２面に続く→

→１面から続く
地方の会員からの呼びかけがあると実現も早くなるかと思われます。ぜひお誘い賜ればと存じます。あるいは総会をいっそ全国各地でやってみようというのも一つの案です。

いずれにしても、会費を納めていただいている会員の皆さんに参加の実感を味わっていただきたいものです。そのためにも東京周辺で何が行われているのか、を一早く全員に知らせたいと思います。この広報紙もその一環ではありますが、何と言ってもホームページの充実を図ることが重要です。今期の重要課題として取り組んでまいります。

参加の実感を

５０会は中央大学ＯＢ会、学員会組織の一員で年次支部です。他に職域支部、地域支部があります。年次支部は、エリアも全国に広がっており、なかなか全員集合とはいきませんが、絶えず情報を発信し、機会があれば参加していただけるように頑張ってまいります。どうか総会に向けて率直なご意見を賜りたいと存じます。

２００８年度活動記録

2008 年　5 月　6 日（火）東海道：由比宿「さくら海老」満喫の旅
2008 年　6 月　7 日（土）講演会　政金　堯氏「車は家族の一員」　駿河台記念館
2008 年　6 月　7 日（土）役員会開催　駿河台記念館
2008 年　6 月　7 日（土）定時総会開催　駿河台記念館
　　1)2007 年度事業報告及び決算
　　2)2008 年度事業計画及び予算
2008 年　7 月 19 日（土）年次支部との意見交換会　巣鴨ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ
　　47 白門会・白門 48 会・49 年白門会・白門 50 会の役員
　　ﾃｰﾏ：年次支部協議会開催「留学生と学員の集い」（継続）
2008 年 10 月 26 日（日）ﾎｰﾑｶﾐﾝｸﾞﾃﾞｰへの参加　多摩ｷｬﾝﾊﾟｽ
2008 年 12 月　9 日（火）忘年会　お茶の水
2008 年 12 月 13 日（土）年次支部との意見交換会　巣鴨ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ
　　47 会・48 会・49 会・50 会の役員
　　ﾃｰﾏ：年次支部協議会開催「留学生と学員の集い」（継続）
2009 年　1 月 2～3 日　箱根駅伝応援（１泊）　箱根小涌谷「ﾎﾃﾙﾊﾟｲﾌﾟのけむり」
　　往路５区・復路６区
2009 年　1 月 17 日（土）年次支部との意見交換会　巣鴨ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ
　　あらたに白門 46 会の役員が加わる
　　ﾃｰﾏ：年次支部協議会開催「留学生と学員の集い」（継続）
2009 年　2 月 21 日（土）懇親会　築地
2009 年　3 月　7 日（土）年次支部との意見交換会　巣鴨ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ
　　46 会・47 会・48 会・49 会・50 会の役員
　　ﾃｰﾏ：年次支部協議会開催「留学生と学員の集い」（継続）

卒業式に寄せて

◎はなむけの言葉＜総長・学長 永井和之先生＞

「人生の折々に、節々に、自分の来し方に想いをやり、そして、将来に思いを馳せることは、その人間にとって、生き様を丈夫にし、大地に根ざす契機となるものと考えています。無為に人生を流すだけではなく、流されるだけではなく、人生を歩む人は、人生の節々を活かしていると思います。」「君たちをおくる教職員を代表して、そして、君たちの保護者の皆様の気持ちを代弁して言えば、人生の節において、感慨を持ってほしいと願うものであります。感慨を持つ人は、悔いのない大学生活をおくったからであります。そのような卒業生には、心からのお慶びを申し上げたい。そして、これからの人生が豊かなものとなることを願っています。また、感慨を持たない卒業生、悔いを残している卒業生諸君に言いたい。人生に悔いは付き物であると。とりわけ若い頃の人生には悔いは付き物というより、悔いばかりかも知れないとも思う。しかし、同じ悔いはしないのが、知恵というものだと考えています。悔いの数だけ知恵を身につけていけば、君たちの人生は本当に充実した、それこそ豊かなものとなるでしょう。でも、悔いの数だけ知恵を身につけなくても、悔いの多い人生も、年を経るほどに思い出の多い人生となるというのも、これも人生のおもしろいところかも知れません。これは、既に本学を卒業して、４０年を経た私自身の感慨なのかもしれません。実際は、卒業後の年数を経るほどに、同じ悔いを繰り返しつつ、知恵を身につけない我が身を省みつつ、これも人生と慰めているのかも知れません。と、このような卒業生諸君が、どのダイプであっても、結局、人生はおもしろく、味わってみる価値のあるものと考えています。」「そして、大きな人生を歩んで欲しい。そのような君たちの人生に幸多きこと願っています」。

３面に続く→

春暖が桜の開花を促していますが、大学では、３月・４月といえば「おくる」・「迎える」の季節です。３月２５日は中央大学の卒業式（文系）でもあります（理工学部は、３月２４日）。「中央大学百年史 年表・索引編」によると、文系では昭和２５年の第６７回の卒業式からいまの日付にしたことがわかります。今年の卒業生数は５，６２７名で、昭和５０年は８，０３４名でありました。比較すると、昭和４０年代後半はまだまだマスプロ教育であったことが窺えます。

学生時代を想い出す

この季節は、青春時代を振り返るにはよい時期でもあります。楽しい、悔しい、輝かしい、ほろ苦い、困難に立ち向うなどの経験をお持ちの方は多いことと思います。私の学生時代を想い出していただければと考え、現役の学生記者が取材・編集する大学広報誌「Hakumon ちゅうおう」の卒業生記念号から関係者の言葉を拾い、それへの手助けにでもなればと思って投稿させていただきました。

（幹事長　中央大学職員　塩谷治史）

◎自主的な研究体験を自信の源泉に＜理工学部長 田口東先生＞

「混乱の先に現れるモデルを見通す力、（中略）難しい状況の中では、将来を見通して、自分がどのようなポジションで活躍しているかという姿をイメージできることが大切であると思います。そして、その将来像は、皆さんが身につけてきた実力に裏付けられたものであって欲しいと願っています。」「大変に困難なことを要望しているようです。しかし自信を持って、自分の考えを進めてください。そして、自信の核として、それぞれの専門分野で自分の考えを研究論文にまとめたという知的な体験を置いてください。研究室での議論やアドバイス、外の研究発表における交流の中で研究を進めてきたことは、貴重な体験に違いありません」。

卒業式に寄せて

◎長期休みは海外でボランティア（経済学部卒業生　石川さん）

『大学進学で経済学部の国際経済学科を選択したのは、「途上国のことをメインに勉強したい。自分の目で確かめたい。頭で考えたい」と思ったからだった。幼い頃に旅行でタイやフィリピンへ行った時に見てきたものを深く知りたくなったのだ。』『「自分と同じ歳の子が夢を見れない」という現実を目にし、「客観的に日本の生活、自分の恵まれている環境を見ることができた」という。』『「海外でも日本でもいい出会いをいっぱいした」と大学４年間を振り返り、今後については「希望とか元気を与えられる人になれたら嬉しい」と目を輝かせた』。

◎監督、同僚、友人すべてに「感謝」　　フェンシング一筋にロンドン目指す（文学部卒業生　千田さん）

『海外遠征などが多く、授業にはなかなか出られなかった。「ノートが取れないので、クラスの仲間や友人に助けてもらった」。フェンシング部の同学年は３人しかいなかったため、「自分がいないとき、ほかの２人がハードな部の仕事も文句も言わずこなしてくれた。本当に感謝です」という。』『千田さんは、フェンシング部を通じて、「ハングリー精神が鍛えられ、精神的に強くなれたとからです」と語った。さらに、「戸田荘介監督が自分をオリンピックレベルまで引き上げて下さった。中大に来て、戸田監督に出会えて本当に良かった」と、ここでも感謝の気持ちをあらわした。』『次の目標は、「一試合、一試合を大切にし、３年後のロンドンオリンピックを見据えている」という。それには、ライバルで良き友人でもある「大田雄貴選手に勝つことです」と言い切った』。

「小石川後楽園」を訪ねて

北崎　邦彦（理工）

先日、久し振りに後楽園キャンパスに用事があり、訪ねてみたが、その変わり様には大いに驚かされた。地下鉄・「後楽園」駅から「れきせん公園」の中を通り抜けて坂道を登るところまでは以前と変わりなかったのだが。高等学校があり、真新しい校舎があり、あの運動場やレスリング・ボクシング・弓道の道場がどこにあったか分からなくなっていた。我々の記憶は過去の中でも遠く遥か彼方の過去となっているように想われた。

用事はすぐに終わり、少々時間があったので、その学生時代に時々行ったことのある、「小石川後楽園」まで足を延ばした。我々のころは、「小石川後楽園」のお隣に教養関係の授業がある校舎があり、受講のために行ったついでに、お隣さんへもといった感じであった。当時、そのお隣さんへの認識は甚だ低く、ただ、水戸黄門（徳川光圀）が作ったものとばかり思い込んでいた。少々違っていたようだ。光圀の父の頼房が神田川と小石川の交錯する浸水被害の多かったその弱点を逆手に取った、「池泉回遊式」庭園を造ったのだそうで、その父の遺志を受け継いで、光圀があれだけのものへと拡大させたそうである。

園名は皆さんご存知の通り、宋代の氾仲俺の「岳陽楼記」の中にある、「士、天下の憂いに先んじて憂い、天下の楽しみに後んじて楽しむ。」から採られたことは有名である。

この父・頼房は家康の１１男であり、水戸徳川家の藩祖となり、その子の光圀が水戸家を継いだ。兄・頼重は水戸家の家督は継げず、讃岐の藩主となっているが、父の遺志を継いだと言って良いかは分からないが、高松の「栗林庭園」を作っている。

親子の趣味だったのであろうか？その「小石川後楽園」には中国杭州にある西湖の切石造積の堤の縮景した「西湖」や、池中の中島「蓬莱島」を持つ大泉水があり、林羅山が命名した笹に覆われた「小慮山」や、中国殷時代の聖人伯夷・叔斎を祀る「得仁堂」等々がある。これらは、光圀は儒学者・朱舜水から受けた影響によるものだろう。陽明学の「知行合一」が「水戸学」へと発展し、明治維新以降の軍人精神に受け継がれたと言われており、わが国の民族思想の礎になったのだろう。

また、その他に、「徳大寺石」や「白糸の滝」なども見応えがある。と同時にくだけたものでは松林の中に、酒亭「九八屋」があり、農民の苦労の感じるための「水田」もある。光圀が編纂を始めた「大日本史」はその死後も引き継がれ、水戸徳川家は明治の中ごろにようやくそれを完成させている。また、光圀はこの「小石川後楽園」を江戸市民に開放さえしている。今もこうして都心でその空間を楽しめるのも光圀の遺志であろうし、彼のエネルギーが残っている証拠でもあろう。四季それぞれの風情を持った庭園をその折々に訪ねてみたいとも思う。

定年後の遊び場の１つに含められてはいかがでしょうか？

“心の穴”埋めるボランティア活動

近況報告

政金　驍

昨年３月末に退職し早いもので間もなく１年が経過する。退職後４月から家の立替に着手。昨年７月に仮住まいに引越し今年の１月末に新築なった家に引越しを済ませた。７ヶ月の仮住まいの間、毎日建築現場に足を運び大工さんと仲良しになった。それが終わってしまった今、心のどこかに何かぽっかりと穴が開いたような気がする。力を入れていた地域のボランティア活動も符丁を合わせるように終わってしまった。現在地域のボランティア活動に二つ参加している。一つは IT 活動普及の「湘南二宮 IT クラブ」、いま一つは二宮駅前に聳える(？) 標高３６２メートルの吾妻山の頂上近くに咲く菜の花を見学に訪れる町内外の人達へのボランティア、「菜の花ウオッチング」である。

菜の花ウオッチングは町づくりの一環として今年で４年目になる活動である。人口３万人足らずの小さな二宮町に早咲きの菜の花と富士山を見学に訪れる町内外の人達へのもてなしは楽しいものである。ボランティアは相手の人に喜んでもらえなければ、一方的に与えるだけではいけないと思う。地域のボランティアを続けてきた今、目を海外に向けた活動に関心を持っています。

町づくりへ菜の花ウオッチング、海外活動にも挑戦

国際協力機構（JAICA）によるシニア海外ボランティアへの応募です。開発途上国への援助に政府開発援助（ODA）があります。ODA によるボランティア派遣は主に JAICA が担当しています。青年海外協力隊、日系社会青年ボランティア、シニア海外ボランティア、日系社会シニアボランティアなどの制度では、専門分野を生かし途上国で一定期間協力活動を行う事になっています。在職中から出来るものなら一回チャレンジしてみたいと考えていました。私の周囲の状況が今整ったと思います。

とは言ってもそのハードルはとても高い。海外でのボランティア活動に耐えうる肉体を持ち合わせているのか、健康診断が非常に厳しい。一時審査に通ると二次審査、ここで一番問題となる語学（英語）の試験がある。二次試験の合格率は昨年で 17.4%と 20%に満たない。大丈夫かよ～！まー駄目でもともとそんな気持ちでやってみようと思っています。

もしこの計画が順調に進むと第二弾の報告も考えていますが、あとはやってみてのお楽しみ～と言うところです。